

令和 4 年 3 月 17 日 環境審議会（諮問時）におけるご意見

●伊藤委員

- ・思い切った取組が必要
- ・環境保全の取組に関係する県民及び事業者の動機づけが必要

●打越委員

- ・現行計画に基づく政策方針は間違っていないので地道に継続していくことが大切
- ・明るく、県民の誇りとしてアピールできるような計画を作してほしい。
（アピール方法として、学生を巻き込んだ計画の分野ごとの標語募集）

●加々美委員

- ・現行計画を継続しながら、コロナの影響が抑えられるような、明るい気持ちで取り組めるような計画を作してほしい。
- ・次世代を担う若者の声を聴き、計画に反映してほしい。（会議後意見）
- ・環境教育の取組を更に推進してほしい。（会議後意見）

●小林委員

- ・現行計画の基本的な考え方や指標は正しいと思うので、このまま継承してほしい。
- ・現行計画以降に策定したゼロカーボン戦略の交通、まちづくり、建物、再エネなどの取組や、廃棄物処理計画など取組を補充してほしい。

●手塚委員

- ・身近な観点で環境の大切さが伝わるような内容にしてほしい。
- ・木材利用の拡大は森林吸収量増加の観点でも大切なので、林業の担い手づくりの取組をしてほしい。

●太田委員

- ・ニホンジカの個体数が多くなってきていると感じている。捕獲からジビエとして食べるところまでが身近になるよう取り組んでほしい。
- ・小さいころからの子ども向けの環境教育が大切である。

●林委員

- ・木質バイオマス事業における燃料確保のため、バイオマス生産拠点を位置付ける必要がある。（里山や休耕地等を利用したバイオマス燃料確保のための森林造成）

●福江委員

- ・基本計画策定を機会として、生物多様性保全の意識を高めてほしい。
- ・希少野生動植物保護回復事業計画の取組について、スピード感を持つ必要がある。

●宮下委員

- ・「自然と経済の共存」という経済成長と環境保護を両立させることが大きい課題である。
そのために産業界との協力が大切である。

●宮原委員

- ・リーダー的視点に立った先進取組や先進的な数値目標の設定
- ・新型コロナウイルスによる感染症対応や、テレワークといった新しい生活様式の視点
- ・美しい長野県を守りながら活用する役割を県民が持っていることを織り込んでほしい。
- ・多くの方に読んでいただけるような、わかりやすく親しみやすい計画を作してほしい。

●畑特別委員

- ・二酸化炭素の固定の観点で、建築物などへの木材利用の取組が重要である。

●今井特別委員代理

- ・各指標の分析を行い、次期計画に活かしてほしい。

●堀内委員

- ・世代を超えて、取組を繋げていくということが重要
- ・一生懸命努力するというより、なるべくライフスタイルや日常生活に落とし込むことが重要

●梅崎会長

- ・教育はとても大切である。
- ・県の総合計画審議会で述べた「望ましい未来」は以下のとおり。
 - ストレスフリーで誰もが想いのかなう社会
 - 文化、芸術、スポーツの身近な日常的な触れあい
 - 日本と世界に誇れる地域信州
 - 里山農林業の新展開による食糧エネルギー需給の改善